



学校だより

はと広場

北小 Revival～ありがとう 75 年 100 年に向かってスタート

1 月 号

令和 4 年 1 月 7 日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

賀正～始まりを喜ぶ～

校長 三村 悟

新年明けましておめでとうございます。令和4年の元旦も、眩いばかりの初日の出が、明るく照らしてくれました。今年も困難は続くかもしれないが、力を合わせれば必ず前に進んでいける、そんな気持ちにさせてくれる力強い輝きでした。

新年に街のあちこちで見かける「賀正」の文字。改めてその意味を確かめてみました。賀正の「正」は正月を、「賀」は喜びを意味します。古い年が終わり、新たな年が始まったことを祝い喜ぶ気持ちを表す言葉です。その気持ちを形として表し、良き一年とするために、初詣や書初めなどの行事が昔から大切にされてきました。本校でも、今日の6年生を皮切りに、密を避けるために1日ずつ交代で書初めを行います。墨の香りに包まれながら心を整えて筆を持ち、新しい年への目標を胸に刻む時を作りたいと思います。

さて、今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」。「壬」は、植物の内部に種子が生まれた状態を表わし、「寅」は、季節で言えば春、草木が生じる意味をもつそうです。どちらの文字にも共通するのは「成長」という意味です。

年々成長していく児童を見習い、昨年に比べて一步でも成長できるように、自分にふさわしい目標を見つけないかと思い年末年始に読んだ書籍や雑誌の中で、心に残ったものの一つが「孫育て」の記事でした。この記事で学んだことから「朝、ワクワクして目覚める」ことを目標にしました。

記事の中で目を引かれたのは、初めて孫育てに参加する時の注意として示された次の言葉でした。

「自分がわが子にしていた子育てと、今の子育ては違うという認識を持つこと」



来客・職員入口を飾る

ツバキとセンリョウ

学校教育に関しては、これまで何度も「学習指導要領も変わり今は大きな変革の時です」と書いたり話したりしてきました。しかし、子育てという自分事になると、つい昔の経験で語ってしまう私がいることに気づかされました。

時代が変わり環境が変わったことで、セオリーも変わってくるものです。自分の経験や苦労話を押し付けるのではなく、自分にとって初めての「孫育て」に挑戦しているというワクワク感をもって、親（娘夫婦）と一緒に取り組むことが大切なのだ学びました。

北浦和小学校で学ぶ児童にも、毎日を「新しい始まり」として喜んでスタートしてもらえるように、教職員一同ワクワクする気持ちを大切にして教育活動を進めてまいります。本年もよろしくお願いたします。